



真新しいスーツや晴れ着に身を包み式典に参加した新成人の皆さん

令和4年町成人式

決意を胸に新たな門出

令和4年の町成人式が、1月9日に町中央公民館で開かれ、東日本大震災の年に小学3年生だった子どもたち152人(平成13年4月2日〜14年4月1日生まれ)が、大人の仲間入りをしました。あの日から心身共に大きく成長し、人生の門出を迎えた皆さんの成人式の模様を紹介します。



『はたちの決意』を堂々と述べる生駒隆児さん



記念講演で恩師が紹介する思い出話に、笑顔を浮かべる新成人

大ホールで行われた式典には、対象者152人のうち、116人(男性67人、女性49人)が参加し、晴れの20歳の門出を祝いました。

式では、主催者を代表して佐藤信逸町長が「新成人の皆さんが歩き出す道のりは、順風満帆な日々ばかりではなく、時には困難に直面することもあるかと思いますが、焦らず、自分の可能性を信じ、挑戦し続ける姿勢を忘れないでください」と、新成人を激励。その後、田代陸翔さん(船越)が力強く町民憲章を読み上げました。

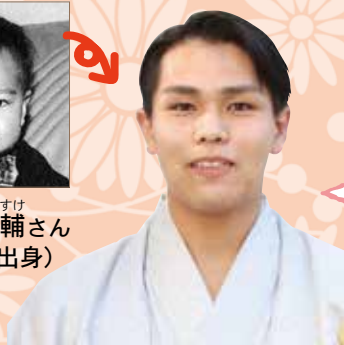
続いて、参加者を代表して壇上に立った生駒隆児さん(船越)は「東日本大震災の際には、地域の方々の協力はもちろん、全国、世界各地からの支援により復興に向かって歩みを進める

20歳になりました

本紙の赤ちゃん紹介コーナー「1歳になりました」は、昭和63年8月にスタートし、これまで大勢の元気な子どもたちを掲載してきました。ここでは新成人3人を当時の写真と一緒に紹介します。



木下 慶輔さん
(境田町出身)



ここまで育ててくれた家族に感謝しています。これからは、自分の力で人生を歩めるよう今できることに励んでいきたいです。まずは、教員になることを目指し頑張ります。



田代 陸翔さん(船越・20)

地域に寄り添った消防士に

今年の成人式で実行委員を務めた田代陸翔さん。「大きなイベントを任されることは初めての経験で緊張しましたが、同級生の笑顔が見ることができて嬉しかったです」とホッとした表情を見せます。昨年10月から子どもの頃から夢だった消防士として、山田消防署に勤務しています。当初、実行委員を引き受けるか悩んだという田代さんですが「仲間

間の委員と協力して準備を進めるうちに楽しくなってきました。仕事の合間を縫いながら打合せを重ねる日々でしたが、式が近づくとつれて、最後までやり遂げなければという強い使命感が生まれてきました」と活動を振り返り「式が終わった後に友人から『楽しかったよ、ありがとう』と声をかけられた時は、みんなの思い出に残る式になって本当によかったなと思いました」と達成感に満ちあふれていました。

コロナウィルス感染症など、困難な状況が続く中でも成人式を迎えられたこと、自分になりたい仕事に就けたことに幸せを感じました」という田代さん。「今まで支えてくれた家族や地域の方々に恩返しができるよう、地域に寄り添った消防士を目指します」と決意を新たにします。



スナップショット



ことができました。この時初めて、人と人とのつながりの大切さ、そして強さを知りました。つらい経験ではありませんでしたが、今私たちが強い気持ちで生きる原動力となっています。成人としてこれからの社会を、山田町を担っていく存在であるという自覚を持ち、日々精進していきます」と『はたちの決意』を述べました。

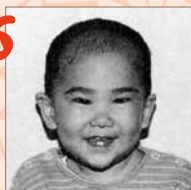
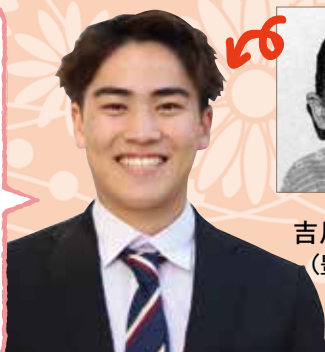
式典後の記念講演では、新成人の中学校時代の恩師7人が、当時の思い出話やスライドなどを紹介しながら、祝福と励ましの言葉を贈りました。

この日は、旧友や恩師との再会を喜ぶ光景や真新しいスーツと晴れ着姿の新成人の皆さんを家族で写真におさめる姿が見られるなど会場は終始明るく元気な声と笑顔に包まれていました。

新型コロナウイルス感染症の影響から昨年は中止となった成人式。今回は行動制限が緩和されたものの不安が残る中での開催となりましたが、新成人の皆さんにとっては、自ら式典の運営に携わるなど、一生に一度の大切な日となったようです。

人生の門出を迎えた新成人の皆さんが、より多くの夢を成し遂げ、古里山田をけん引する存在となるよう心から応援し、これからの活躍を期待します。

現在、小・中学校、高校で出会った先生方を目標に教員資格の取得を目指しています。岩手県の教員となって、いずれは山田町の子どもたちを良い方向に導いていきたいです。



吉川 朋希さん
(豊間根出身)

無事に成人式を迎えられて嬉しいです。今は、大好きな山田町に貢献できるよう保育士を目指し勉強しています。20代はあっという間と聞くので、悔いなく楽しみたいです。



武藤 花菜さん
(川向町出身)